

強い意志で石に向かう石像彫刻師

長岡 焜山



滝川バイパスを車で走っていると見えてくる、大きな聖観音菩薩像。国産の原石から彫られている仏像としては、国内一の大きさを誇るといわれています。手がけたのは、滝川市で「長岡石像彫刻」を営む長岡焜山さん。この道50年の長岡さんに、石彫への思いをお聞きしました。

地元滝川で身につけた技術と本場で触れた伝統技術

滝川市朝日町の一角にある長岡石像彫刻の工房。敷地内には大きなクレーンなどの重機があり、1メートル以上ある御影石の原石が所狭しと並んでいます。中には、どことなく人型をしているものもあります。「注文が入ったらすぐに作れるよう、荒取りした状態でおいてあるんです」と長岡石像彫

刻の長岡焜山さんは話します。

受注した彫刻像だけではなく、自身が彫りたいと思ったものも作るそうで、高さ2メートルはあろうかと思われる「アダムの創造」をモチーフにした彫刻も、横たわっていました。「ヨーロッパのものでも現代的なものでも作りた

しひしと伝わってきます。

現在66歳の長岡さんが石彫の世界に入ったのは、昭和42年。中学校卒業を控えていた当時、父親が夏場のみ務めていた山崎石材工業株式会社の社長から声がかかったことがきっかけでした。

用いて灯籠作りをしながら石彫

りの技術を身につけていきました。さらに、石材加工技術の集積地として知られる愛知県岡崎市を訪問。「安土桃山時代から続く伝統的な灯籠や鉢物の数々に心を打たれました。500年前の石屋さんがそのままそこに残っているのを見て、絶対にもた訪れたいと心に決めました」と当時を振り返ります。

さらに、28歳で御影石の原石が産出される福島県内の石材店に就職。石材施工の技能検定試験を受けて、石材加工作業と石張り作業の両方の部門で一級を

取得しました。

岡崎市と福島県で修業を積みながらも、独立のために滝川市へ帰郷。31歳で現在の長岡石像彫刻を立ち上げます。「当時はまだ自信がなくて、自分が生まれ育った場所じゃないとできないと思った。今はどこに行ってもできる自信あるけどね」と微笑みます。

石にのまれないよう迷わず彫る

滝川市を見守るように立っている聖観音菩薩像は、交通事故で命を失った人々の冥福を祈り、交通安全の祈願を込めて昭和63

年、東公園に建立。像の前では

毎年、「北海道交通遭難者慰霊・交通安全祈願式」が執り行われています。

独立した証として自分の工房に観音像を建てようと、8メートルの原石を彫っていた長岡さん。その様子が偶然にも、当時の滝川市長・吉岡清栄氏の目にとまり、交通安全の慰霊碑像を手がけることになったといま

す。

大きな作品を手がけるにあたり心に決めていたことは、「石にのまれない」こと。「強い意志で向かわないと、どこから手を付けていいかわからなくなる。一度迷ってしまったら何日かけて彫っていても、進んでいかない」。

石彫は自分の天職 何百年も残る作品を

弟の和慶さんも彫刻師として活躍中。ともに切磋琢磨し、平成12年に天台寺門絵本山の三井寺から、平成22年には三千院門跡から仏像を納める大仏師の称号を兄弟ともに授かりました。

さらに長岡さんは、厚生労働省から卓越した技能者として「現代の名工」を受賞。

さらに地元小学生に向けた彫刻教室の開催や職業訓練指導員として技能の伝承活動をしてきたことが認められ、平成22年に滝川市政功労者の表彰を受けました。

今後、どのような作品を作りたいかとの質問に「いい作品」と答える長岡さん。

「石に向かっているだけで何も考えずに集中できた。目の前にある石を最大限にどう使うかというのが技量になってくる。墓石なのか仏像なのか、芸術作品なの



長岡石像彫刻 長岡焜山さん

か。どれにしても、何十年、何百年も残るような生きた作品を作りたい。そこそこ作ってお金をもらえればいいというんじやなくてね。石彫は私の天職です。数メートルあるような大きな作品は横に寝かせた状態にし、体をねじらせながら彫っていくので、肩や背中、腕の硬直が耐えませんが、「もう年齢的に大きな作品は難しいけれど、要望があれば応えたい。好きでこの道に入ったからには、生涯続けたいね」と話す長岡さんの目には、青年時代から叩き上げてきた腕への自信と、生涯彫り続けたいという信念が宿っていました。



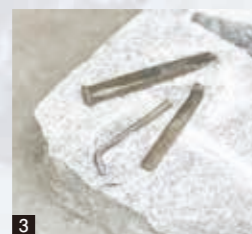
1



2



4



3

1 受注した不動明王。荒取りした後は墨をひき、電動ドリルで形を出していきます。2 彫りかけている「アダムの創造」。骨格をしっかりと出さなければならず、仏像とは違った面白さがあるといえます。3 原石を割るときに使う「セリ矢」。原石にドリルで穴を数カ所開けたところにセリ矢を差し込み、上から金槌で叩くと原石がきれいに割れます。4 石を彫る様子をデモンストレーションしてくれた長岡さん。石にも割れやすい方向の「目」があり、一番割れやすい面から割っていくそうです。



長岡石像彫刻

滝川市朝日町東4-10-18
TEL 0125-24-3428